

第1回エッセー・絵手紙コンクール 第2次審査

エッセー、絵手紙とも13編
6月9日発表の最終審査へ進出

第1回エッセー・絵手紙コンクールの2次審査の結果が4月21日に発表された。第一次審査を通ったエッセー25編の中から13編、絵手紙24編の中から13編が最終選考に進んだ。第2次審査は広報委員会のメンバーが中心となって投票されたが、福山委員長は「選ばれた中からさらに選ぶのは、レベル



「エッセー・絵手紙コンクール」の進行を協議する広報委員会

の近い作品も多く大変だった。絵手紙も最初の試みとしては、楽しい作品が多く成功したと思っている」と手ごたえを感じていた。

それぞれ13編ずつの最終審査は、5月中旬に業界団体委員、日遊協委員の投票によって行われ、最優秀賞、優秀賞、佳作の入賞作品が決まる。

「回顧」や「交流」を綴って

今回のテーマは、エッセー、絵手紙ともに「パチンコと私」「パチスロと私」「未来のパチンコワールド」の3つで、応募総数は1196編（エッセー663編、絵手紙533編）だった。エッセーの応募では、一般の人からは「手打ちパチンコ時代の回顧」「パラー従業員との交流」「親子二代のぱちんこ体験」などの題材が目立ち、団塊の世代の男性、40〜50代の主婦層の執筆が多かった。業界関係の人たちからは「遊技人口の減少をどう防ぐか」というテーマが最も

多く、「お客様との交流」「ぱちんこの楽しさ」を書いた作品も一定の数を占めた。絵手紙はセミプロレベルから子どもさんまで幅広い人たちが参加し、題材も変化に富んでいた。ぱちんこへの思いを伝えるものが圧倒的だったが、昭和30〜50年代への郷愁を表現したのも多くあった。

最優秀2名は総会で表彰

入賞作品は6月9日、日遊協ホームページで発表され同日の日遊協通常総会では両部門の最優秀賞受賞者が表彰される。エッセーの最優秀賞1名は旅行券30万円分、優秀賞2名は旅行券10万円分、佳作10名商品券2万円分、絵手紙の最優秀賞1名は旅行券15万円分、優秀賞2名は旅行券5万円分、佳作10名は商品券1万円分が、それぞれ表彰状とともに贈られる。

広報委員会

4月12日
本部会議室
出席委員等9人

絵手紙に533編

エッセーは663編の応募

第1回エッセー・絵手紙コンクールの第一次審査が終わり、その

内容が報告された。エッセーの応募総数は663編（一般366編、業界関係297編）で、昨年の論文・作文コンクールの746編には及ばなかったが、一般では昨年の273編より応募が多かった。今回は、並行して初めて募集された絵手紙は533編と多くの人が参加した。4月初旬までに第一次審査が終わり、エッセー25編、絵手紙24編が選ばれた。広報委員会としては、注意事項や準備などの作業を進め第2次審査を4月下旬までに終わらせることを決めた。

今年度の事業計画のひとつ、共同通信PRワイヤーの活用について、東日本震災関連のニュースリリースに関しては無料なので、業界の被災地支援活動などのPRをすすめることが協議された。それだけでなく、パチンコ業界に対するパッシングが強い現在、誤解を解くためにどのようなPR活動が有効か話し合わせ、今後具体化することになった。

新しいデジタルちらしとして検討してきた凸版印刷の「Shufooo!」については、東日本震災などで、一旦ペンディングにすることとした。

「開発」と「健全化」合併へ

明日の遊技機創造室を刷新

明日の遊技機創造室を刷新するための会議が4月6日、担当副会長、副室長、委員長らを集めて日遊協本部会議室で開かれた。同創造室の2委員会（遊技機開発委員会、遊技機健全化委員会）を11年度から1つにまとめる方向を確認、5月の第1回定例理事会に諮ることになった。この日の出席者は吉川篤担当副会長、足立利美副室長、茂木欣人同、鏡味政樹遊技機開発委員長、梅津源太遊技機健全化委員長の5人と事務局側の担当3名。

幅広い課題を取り上げて行く

新しいテーマを考えるために抜本的な見直しの時期に来ている」との意見が出た。

その上で、「これまでの活動は継続させるが、『開発』『健全化』の名称にとらわれて着手できなかったもの、例えばファンへのアプローチ、コストダウン、周辺機器の共通化など幅広い課題を取り上げたい」「課題ごとに少人数の実務者会議またはプロジェクトチームを設けて機動性を持たせ、委員会で全体をまとめていくのはどうか」「フ

スタなど日遊協として他団体ができないようなものを独自に主催し、他団体と協力できるものは協力して推進する方向が望ましい」などの提案があった

経営改革委員会

4月12日
本部会議室
出席委員等16人

消費税、賞品など中心に

11年度の事業計画決める

2011年度の事業計画を協議

し、①消費税増税への対応 ②いわゆる店外オンラインなど新たな賞品提供の仕組みづくり ③ホール経営に関わる諸課題の研究 ④緊急テーマに応じた勉強会——の4点が挙げられ、とくに①②について小委員会またはプロジェクトチームの形式で検討していく方向を確認した。

このうち、消費税については10年3月に日遊協消費稅部会(当時)が最終報告(CRユニットと払い出し基板との間のインターフェースの変更)をまとめたが、その後、全日遊連とのすり合わせが進んでいない状態をどうするかが話し合われた。店外オンラインについては、行政やコンビニ業界など、外の世界」とも緊密な連携をとって進める必要があるとの指摘があった。

危機管理について協議

ホール経営に関わる諸課題の研究では、今回の大震災に関連して危機管理について取り上げたいとする意見があった。有事の際、組織の連絡網が不通になったときなど企業内の危機管理、お客様の避難誘導・停電対策などファンに対する危機管理など2種類の危機管理が挙げられた。これに関連して、

大震災の自粛ムードの中でホールへのパッシングが心配される点について、「社会全体から信頼されるホール経営、パチンコ業界のあり方を考えるべきで、それにはいい機会ではないか」との意見も出していた。

社会貢献・環境対策 委員会

4月20日
本部会議室
出席委員等11人

店休の運用など協議

消灯、温度なども検討

4月25日のホール5団体会議での合意に先立ち、輪番店休方式が実行された場合の運用、ルールなど、ホール5団体環境実務者会議で考えなければならぬ諸問題を協議した。その他の節電方策として、パチスロ・パネルの蛍光ランプの消灯、店内の設定温度のアップなどが話し合われた。

これら業界としての節電の取り組み内容を、国と国民、ホールのお客様へ告知して理解してもらう必要があること、ホールにも趣旨を徹底させて足並みをそろえてもらう必要があることなどが指摘され、それぞれの方策が協議された。

遊技機健全化委員会は、過去2年にわたり支部単位での不正対策勉強会の開催を主要な活動としてきたが、会議では「勉強会は日遊協単独で催すことには限界がある。他団体でも同様のイベントが重複して行われており、協力関係を築きながら共同で開催していくほうが効果が望める」との指摘があった。また、遊技機開発委員会についても、「ばちんこ&パチスロフエスタ」(2月26日、東京・すみだ産業会館)を実現したことで、新

人材育成委員会

4月20日
本部会議室
出席委員等8人

人事担当者で情報交換
「人材育成フォーラム」

2011年度の新規事業として、会員企業の人事参加者が参加して情報を共有する「人材育成フォーラム」について話し合った。ホーム、メーカー、販社、周辺機器等の業種横断的に人事関係の実務担当者レベルが集まり、講演とディスカッションなどで人事制度、施策について意見交換し、おのこの社が抱える課題や悩みを共有する。今後の業界を担う人材育成について考え、自社のプランに役立つ情報を持ち帰るとともに、他社の人事関係者との人脈形成を図る。1回目のフォーラムは30人程度の規模で、会場は日遊協本部会議室とし、なるべく早く実施したいとしている。

「マネカレ」など変更協議

5回目を迎える遊技産業マネジメント・カレッジ、昨年11月に初参加した東京ビッグサイトでの合同就職説明会など2つのイベント

については、東日本大震災が与えた業界への影響などを考慮して規模や日程など当初予定の変更を協議した。9月に2泊3日の日程で進めていたマネジメント・カレッジは1泊2日の日程で開催時期も11月ごろに遅らせること、新卒採用のための取り組みは合同就職説明会より学生にアルバイトとして就業体験してもらうインターンシップ方式にシフトすることなどを検討した。

11年度の店長等講習・試験は、仙台地区を除いて全国9個所での開催が確定しているが、それぞれの会場での担当講師を委員の中から選任した。

中古機流通協議会

実態調査の結果報告

「新・制度は的確に運用」

第72回中古機流通協議会（委員長・金本正浩全日遊連副理事長）

は4月15日、全商協本部会議室で開かれた。昨年6月に運用開始して約10か月を経過した新・中古機流通制度について、全商協と回胴遊商から実態調査の報告があった。全商協は組合員20数社、運送業者30社に対し、遊技機の保管場所の現地調査を行ったが、全てビニール包装・セキュリティーシールによる保全措置がなされていた。回胴遊商は保管・納品確認書とセキュリティー報告書の運用、管理について調査を行った結果、調査対象者にはイレギュラーがなく、的確に運用、管理されていた。なお、全商協から運用の利便性を高めるためにセキュリティーシールのデザインを変更することが報告された。

ホールも概ね「理解」

全日遊連からは、新・中古機流通制度に関するアンケート調査結果が報告された。5618店舗の回答があり、書類の運用、移動のルールについて大多数が理解していることが判明した。しかし、明細書など書類書き込みを簡略にしてほしいなどの要望も出されていた。2、3月の確認証紙発給状況が

報告されたが、東日本大震災によつて、3月は東北・東日本関連で大きく実績が落ちてきている。台数で全商協は前年比74%、回胴遊商で本来伸びている状況なのに頭打ちとなっている。

昨年度は3117店舗
推進機構の立入検査

一般社団法人遊技産業健全化推進機構（河上和雄代表理事）は4月15日、昨年度（10年4月1日～11年3月31日）の立入検査店舗数を発表した。それによると、東日本大震災の影響で3月の件数が伸びず、47都道府県で3117店舗（前年実績4449店舗）と当初の想定3200店舗を下回った。07年4月の検査開始以降の総計は1万1328店舗となった。

機構の立入検査は、不正根絶への取り組みという機構の趣旨に賛同して誓約書を提出したホールに、随時・非通知で実施されている。今年度は初めて計数機検査に着手すること、遊技機についても悪質・巧妙化している不正改造に対処するためより時間をかけた検査をすることなどから、1800店舗を目標としている。

被災地支援に重点を置く 総会節約と
現地派遣など

日遊協九州支部総会が4月19日、福岡県遊技会館で開かれ、山口雅弘支部長以下53人（委任状含む）が出席し、冒頭に東日本大震災の犠牲者に黙とうをささげたあと、2010年度活動報告、2011年度活動方針、重点推進事項などを承認した。

山口支部長は、会議の中で「義援金など被災地支援をしっかりとやりたい。また日本が沈没しないために、われわれも仕事でもがんばりたい」と挨拶した。この総会は懇親会などすべてキャンセルし、支出金の差額を震災のための義援金とした。来賓として出席した深谷友尋会長は「震災対策を理解し、会議室での開催に感謝する。本部も調査隊を既に3度現地に送り、20日からは第1次のボランティア隊が派遣される。現地の要望を十



あいさつする山口支部長

分にくみ取っていききたい」と強調した。九州支部としては、5月17日（21日）にボランティア隊を派遣するために参加者を募ることを決め、会員ホールでの「震災支援ワゴンコーナー」の設置などを検討することになった。

北海道支部交流会

北海道支部で「拡大交流会」他支部の会員も
集まって成果

総会第2部として「震災から学ぶ遊技業界の社会的認知と健全化に向けての活動」と題して意見交換会が開かれ、35人が参加した。深谷会長が、使用電力に対する風評被害、ネットでの情報の混乱を指摘しながら「九州での被災者の雇用受け入れ」を要請した。これに対し岩見吉朗相談役が「積極的に対応する。業界全体で取り組みを進めていこう」と応えた。

日遊協北海道支部は4月18日、ホテルエルム・サッポロで「北海道支部拡大交流会」を開いた。拡大交流会は、支部強化委員会の発案で支部を活性化するために、支部

所属の会員企業だけでなく、支部に営業所がある他の会員企業にも声をかけて日遊協を知ってもらう目的で実施された。明日の協会創造室の室長である松谷明良北海道支部長が先陣を切って実施し、第一回目の今回は支部会員11社13名、他支部会員21社23名、運営スタッフ5名の総勢32社41名が集まった。松谷支部長が「支部以外の会員

の方にも集まっていただき成果をあげられた」と挨拶したあと、北海道支部会員でもある伊豆正則

回胴遊商理事長が「業界の現状と展望」について講演した。伊豆理事長は、東日本大震災の被災状況や福島原発事故における電力供給不足で混乱している業界の現状を説明し「日遊協は真のリーダーシップを発揮し他のホール団体をまとめなければならぬ。また、企業は我欲を捨て業界がまとまらなければならぬ」と語った。また、本部事務局から日遊協の活動紹介を行った。日遊協の歴史

「拡大支部会」であいさつする松谷支部長

北海道支部拡大交流会



や取り組みを知っていただきために作成した日遊協PRビデオを放映し、現状活動について補足説明を行った。参加者からは「今後もこのような機会をつくっていただけると嬉しい」など、前向きな声が多く聞かれた。

警察庁と連絡会議

大震災の対策中心に
深谷会長以下が説明

警察庁と日遊協の今年1回目の連絡会議が4月18日、東京グランドアーク半蔵門で開かれた。警察庁から担当官のご出席をいただき、日遊協からは深谷友尋会長はじめ副会長、専務理事、常務理事、相談役の11人が出席した。

深谷会長が、3度にわたる現地調査の映像を紹介しながら「正視に耐えない惨状でした。そんな中でもがんばっている人々に感銘を受けました。現地の体制も整ったので、石巻市へ4月20日から3日間8人のボランティア隊を派遣す

ることを手始めに、支援活動を続けます。地域の要望に十分適応しながら隊員の安全性にも留意したい。現地の苦しみと悲しさを共有することが何よりも大切で、このあと報告する節電対策など真摯に努力しなければ、この業界の存在もありえないという気構えで取り組んでいきたい」と報告した。

そのあと、節電の取り組みに関する詳しい内容、義援金の募集状況、貯玉補償基金による補償、健全化推進機構の運営状況について報告された。また「ぼちんこ&パチスロフェスタ」「合同就職説明会」「エッセー・絵手紙コンクール」についても説明が行われた。引き続き、東日本大震災に対する産業界の課題について意見交換が行われた。

不正対策室会議

**オーブンネット大幅減
大震災の影響が顕著に**

不正対策室会議（室長・伊東愼吾、日遊協常務理事）は4月22日、日遊協本部会議室で開かれ、PSIO（不正対策情報機構）への入力情報が報告され、ゴト、不正情報について検討された。PSIOオー

ブンネットへ（業界、一般からの不正情報）への3月入力は530件で昨年同月より大幅に177件マイナスとなった。これは、明らかに東日本大震災の影響と思われる、入力の中には不正とは関係ない節電、自粛を求めるものもあった。

ゴトではBETボタンに対するケースが増えており、その対策が取られたことが報告され、糸付き玉ゴトについても対応が討議された。不正情報では基板、かしめ、ハーネスなどへの不正のあり方について話し合われた。

懸案のPSIOポスターについては、大震災に対する対策に各組織とも追われているので、9月以降に制作内容の検討に入るようになった。

支部事務所長会議開く

日遊協支部事務所長会議が4月28日、日遊協本部会議室で開かれ、7支部の事務所長が出席した。新任の河村美三近畿支部、成光一夫中国・四国支部の両事務所長と本部の富岡昭則参与がそれぞれ挨拶したあと、東日本大震災とそれに関連する業界、日遊協の主な動きが説明された。

その他の出席者は次の通り。（敬称略）

〔支部事務所長〕吉田義幸（北海道）、高橋文良（東北）、江口憲治（東京都・関東）、石黒重宏（中部）、北島俊和（九州）。
〔本部〕深谷友尋（会長）、篠原弘志（専務理事）、伊東愼吾（常務理事）、佐藤千治（事務局長）ほか。

参与に富岡昭則氏

近畿・中国四国支部の事務所長も新たに就任

日遊協は4月1日付で、山本基次参与の後任に富岡昭則氏を発令した。富岡参与は、警視庁大崎署と多摩中央署で生活安全課長、四谷署警務課長などを務めた。同参与は遊技機販売業者の登録資格審査、遊技機取扱主任者講習・試験を担当する。

空席だった近畿支部事務所長に河村美三氏が就任した。河村氏は大阪府警保安第二課課長補佐、薬



富岡 参与



河村 近畿事務所長



成光 中国・四国事務所長

物対策課課長補佐、同課管理官などを務めた。
竹前満儀中国・四国支部事務所長の後任に成光一夫氏が就任した。成光氏は広島県警尾道署刑事課長、世羅署地域課長兼警備課長などを務めた。

MAY

5月の行事予定

6日(金)	10:00~16:50	取扱主任者更新講習・試験(メルパルク広島)
10日(火)	13:00~15:00	流通制度委員会
11日(水)	15:00~17:00	広報委員会
12日(木)	13:00~15:00	経営計画委員会
	13:00~14:30	中部支部総会(アイリス愛知)
13日(金)	15:00~17:00	人材育成委員会
	15:30~17:30	社会貢献・環境対策委員会
17日(火)	16:00~	不正対策室会議
18日(水)	15:00~17:00	遊技機委員会(開発・健全化合同)
19日(木)	11:00~12:45	副会長・支部長等会議
	13:30~16:00	理事会
	16:30~	記者会見
24日(火)	10:00~17:10	取扱主任者新規講習・試験(メルパルク広島)
25日(水)	10:00~16:50	取扱主任者更新講習・試験(メルパルク広島)
26日(木)	10:00~	店長講習・試験(RCC文化センター)
	13:30~	貯玉補償基金理事会

(株)ゲームカード・ジョイコ ホールディングスが発足

遊技用プリペイドカードシステム事業の日本ゲームカード(株)と(株)ジョイコシステムズは4月1日、共同株式移転方式により両社の完全親会社となる共同持株会社「(株)ゲームカード・ジョイコホールディングス」を設立した。

▼株式会社ゲームカード・ジョイコホールディングス
東京都千代田区一番町16番地
共同ビル

取締役会長・石橋保彦
代表取締役社長・山田明
TEL03・5214・4777(代)
FAX03・5214・4786

●代表者変更
▼グローリー株式会社
代表者・米津隆行

●住所変更
▼株式会社フライン
〒481・0043

愛知県北名古屋市長
沖村西ノ郷245番地

TEL0568・68・7846
FAX0568・68・7847

●3月8日
▼コムシード株式会社

〒101・0062

東京都千代田区神田駿河台3・2
新御茶ノ水アーバントリニティビル
7階

TEL03・5289・3111
FAX03・5289・3112

●3月22日

警察人事

宮崎県警人事(2月14日) 宮崎北署
長(生安部長 横山登▽生活安全部長(延岡署長) 上久保岩男▽生活環境課長(監察官) 白田欣弥▽捜査二課長(生環課長) 内山義和
福井県警人事(3月4日) 警務部付・
辞職(生安部長) 玄津幸隆▽生活安全部長(参事官兼首席監察官) 飯田英雄
鳥取県警人事(3月8日) 交通部長
(生安部長) 神崎哲郎▽退職(総括参事官・生安企画課長 生環課長
長) 藤田洋▽生活安全部長(米子署長) 前田浩二▽生活環境課長(組対課組織犯罪特捜隊長兼管理官・次席長) 長谷川勝

神奈川県警人事(3月10日) 生活安全部長(川崎市警部長兼警務部参事官) 江崎澄孝▽警務部付・辞職(生安部長) 森田洋一▽生活安全部理事官兼生活安全総務課長・生活安全対策室長 生環課長(特別捜査隊長 理事官心得兼生安総務課長) 福井隆
山口県警人事(3月11日) 下関署長(生安部長) 岡野時夫▽生活安全部長(中国管区学校) 先本宏
山形県警人事(3月11日) 辞職(生安部長) 松田裕▽生活安全部長(理事官兼地域課長) 堀敏彦▽警察学校長(参事官兼生安企画課長) 太田富雄
▽生活安全部参事官兼生活安全企画課長(上山署長) 山本裕
三重県警人事(3月14日) 四日市南署長(生安部長) 吉水幸安▽生活安全部長(首席参事官) 生安企画課長
▽犯罪抑止対策監 久保博嗣▽生活安全部首席参事官 生活安全企画課長 犯罪抑止対策監(名張署長) 栃木新一
広島県警人事(3月15日) 生活安全部長(警務部参事官兼首席監察官) 濱岡保行▽広島中央署長(生安部長) 大本昌則
滋賀県警人事(3月15日) 生活環境課長(捜一課国際犯罪対策室長) 西村敏男▽警務部付・退職(生環課長) 源田忠次
岐阜県警人事(3月15日) 刑事部長(生安部長) 平井智彦▽生活安全部長(交通部長) 白井宏孝
長崎県警人事(3月17日) 佐世保署長(生安部長) 山下忠義▽生活安全部長(参事官兼警務課長) 大島英吾

▽生活安全部首席参事官 地域警察強化担当兼生活安全企画課長(鳥原署長) 野中孝行▽交通部首席参事官 交通事件・事故対策担当(参事官兼生安企画課長) 檀浦栄造
兵庫県警人事(3月18日) 退職(生安部長) 松本健二▽生活安全部長(地域部長) 谷川昇▽加古川署長(参事官兼生安企画課長) 大西悟
▽生活安全部参事官兼生活安全企画課長(兵庫県) 岩井清司
京都府警人事(3月29日) 生活安全

全部長(伏見署長) 寺井茂樹▽五条署長(生安部長) 秦陸人▽警務部付兼警察部付兼生活安全部付兼交通部付 府派遣(生安対策課長・聴聞官) 田中敏昭▽生活安全対策課長(自ら隊長) 宮川和生

宮城県警人事(3月31日) 退職(生安部長) 飯塚公良夫▽生活安全部長(仙台北署長) 佐々木昌英▽生活安全部参事官兼生活安全企画課長(生環課長 兼サイバー犯罪対策室長) 倉島英明
▽生活環境課長兼サイバー犯罪対策室長(総務課総務企画官兼監察課監察官兼総務課管理官) 尾形広義
秋田県警人事(3月31日) 辞職(生安部長) 近藤貞夫▽(4月1日) 生活安全部長(秋田中央署長) 佐藤聡
福島県警人事(3月31日) 退職(生安部長) 渡辺敏幸▽(4月1日) 生活安全部長(会津若松署長) 菅野正幹
岩手県警人事(4月1日) 生活安全部参事官兼生活安全企画課長(紫波署長) 佐々木芳春▽警察学校長(参事官兼生安企画課長) 菊池昭一

DATASPO T

貯玉補償基金加盟状況

	店舗数	前月比
北海道	200	-1
東北	482	-1
東京	426	+4
関東	1260	+6
中部	353	+4
近畿	592	+4
中国	218	+5
四国	106	0
九州	549	+4
全国計	4186	+25

(2011年3月31日現在)